

(49)0405 癒しと宗教 011505 締め切り

011505 提出

癒しは自発的・自動的

現代は、癒しが求められる時代といわれたりします。商業化した癒しのテクニックが、街に氾濫しています。わたしは、最近、“真の意味での癒し”の心は根源的な宗教心につながるものと考えています。以前の「炉辺医話」(癒しは医療の原点 14(4), 2001年)で、現代人が癒しを求めるのは人のDNAに記録された森における自然生活記憶にしたがう回帰希求と考えられると書きました。自然、とくに日本では森での生活は、アニマ・八百万神(やおよろずのかみ)の存在する環境で、精霊・多神教信仰が普遍的です。コダマ(エコー)は、木霊だったりします。

フランスの中世の有名な外科医パレは、「神は癒し給う」といったそうですが、それは自然治癒力の偉大さを意味するものであるとさ

れています。癒しは、本来自発的・自動的・自然発生的であり、科学を超えた生命現象における造物主の行為、すなわち神の恵みと考えるのです。造物主の存在を考える心的傾向・態度は宗教性(的)といえます。ですから、他動的・能動的な現代の商業化した癒しは本来の意味から逸脱しているといえます。

ヒトは祈る

”癒しに神、宗教”なんて現代科学的思想のなかった中世の人たちの馬鹿馬鹿しい考えと思うかもしれませんが、人は時代・地域を超えて神に祈るもののようです。例えば、現代の日本で、いまだに四国・熊野の行脚の人気や苦しいときの神頼みなど極めて一般的ですし、フランスのルルドの泉にだって医療奇跡を求めて年間数百万の人が訪れます。驚くことに、2002年のアメリカの統計で、最も人気のある補完・代替医療の1位が自分のために祈る、2位が他人のために祈る、そして5位がみんな

祈るだったのです。WHO（世界保健機構）憲章についても、すでに1998年にその再審査特別委員会が、「健康とは、完全な肉体的、精神的、スピリチュアル(spiritual)および社会的福祉のダイナミックな状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない」という文語を挿入すべきであると提言しています。spiritは、複数の形のspiritsが強い蒸留酒を意味したりして日本人には解釈の難しい言葉ですが、神によって吹き込まれる息の中にあると考えられる生命力の根源（新英和大辞典、第6版、研究社、2002年）といった意味で、spiritualは感覚的に靈性・宗教性に近い概念です。ただし、この提言は、2005年1月現在では、まだ憲章に挿入されていません。

確信すると陽性反応

祈るときは、「願わくば（神に？）、原初的信仰によって安らかな、健康な生活をお与えください」と念じるのが最も一般的でしょう。その時、

人は神がそうしてくれることを確信しているのです。確信することによって、神秘体験が起きたりします。この時の神秘体験には、プラシーボ効果と同じような現象が現れていると考えられます。広瀬は、「古今の宗教上の奇跡は、病気の治癒や障害からの回復などを神仏・聖人の霊力により近代科学的な医療を行うことなく成し遂げる特徴を持つ。そこに働く力を説明するには、超常的な力を前提と必要はなく、奇跡は、私たちの脳が可能にする生理的な変化ととらえる方がより自然であり、それは宗教がもたらすプラシーボ効果的な変化ではないか」「プラシーボ効果とは、人類が長い時間をかけて体得してきた、生き残りのための心身機能の一つ」と言っています¹⁾。その効果は、ときには従来の薬物・手術・精神療法などと同じくらいに、あるいはより強力な治癒反応を引き起こすほどで、おそらくは人類史の大部分、大半の治療において主要な要素をなしてきたものといわれます。世界中のさまざまな宗

教・信仰の場で行われている癒しの儀式は共通しており、祈りをシンボルとする儀式を行うことによって生まれてくるプラシーボ効果であるとみられます。このシンボルとなる儀式というのも、重大な意味を持つもののようです。

また、松本は、「脳はできると確信する（仮説を立てる）と、その確信の論理的な後ろ盾を与えるべく認知情報処理系がフル活動する。そのためできると確信したことは必ずできるようになる。逆にできないと確信してしまうと、脳はできないことの論理的理由を明らかにするよう働き、できる可能性をどんどん縮小する方向に働く」と言っています²⁾。

祈るときには、否定的な感情でいることはないでしょう。肯定的な感情がつよいほど、奇跡的とも言えるほどの効果が現れるのです。

癒しが求められる現代

ではなぜ、現代では癒しが求められるのでしょうか。私はこんなふうに考えています。人間の

本性についていろいろな表現があります。例えば、ホモ・サピエンス(智慧のある)、ホモ・ファールベル(ものを作る)、ホモ・オランズ(祈るもの)などですが、愛し合うものというのもあっていいと考えています。愛情行為、とくに異性間のは、お互いに求め合う、つまり双方通行的であるのが本質と考えられます。ここで、真の癒しは、自動的・自発的であり、神から一方向的に恵まれるもの・施されるものであり、双方通行的であることを本質とする愛情行為の視点からすると、類愛情行為といえます。一方、宗教心も自動的・自発的ですが、これは神に対する一方向的で心的行為で、その意味では類愛情行為といえましょう。真の癒しと宗教心が合わさって真の愛情行為が成立すると考えられます。

現代は、真の愛情不在時代ともいえます。継続するには、愛情対象との間に精神的・肉体的にお互いの妥協・受容・努力・忍耐が必要です。現代の風潮は、すべてについて

流れの中で移ろいやすく、うっとうしい・煩わしいことにはかかわりたくないということです。一方、現代の商業化された癒しは、他動的で真の癒しとはいえないものですが、選択肢が多種・多様・多彩であり、お金を払えば簡単に手に入り、やめようとするればいつでも抜けることができます。マッサージ・リフレクソロジーは類愛撫行為、携帯ゲーム機は癒しの男バージョン、すなわち擬似女性体験、生の女性は扱いが大変、携帯電話は直接会わなくて済む接触。根源には、意識の表層ではかかわりたくない、深層では人とつながっていたいという人間本性の表れとみることはできませんか。

文献

- 1) 広瀬弘忠：心の潜在力，プラシーボ効果。朝日選書679，朝日新聞社，東京，2001年。
- 2) 松本元：愛は脳を活性化する。岩波新書，東京，1996年。

挿 絵 : 冬 の フ ィ ー ジ ー

フ ィ ー ジ ー は 南 半 球 だ か ら 、 7 月 は 冬 で あ ま り
気 候 が よ く な い と い わ れ て い た の で す が 、 ほ ぼ 日
本 の 夏 の 気 候 で し た 。 で も 、 気 の せ い か 椰 子 の
葉 に は 茶 色 っ ぽ い の が 目 に 付 き ま し た 。 こ の 絵
は 、 T - シ ャ ッ ツ に プ リ ン ト し て 、 病 院 の ス タ ッ フ に
上 げ ま し た 。